

経済概況（エミリア＝ロマーニャ州）

2023年4月
在ミラノ総領事館

基礎データ

* 括弧内の％は伊全体に占める割合

- 面積：22,445km²（7.4％） ●人口：4,425,366人（7.5％、2022年）
- 名目GDP：1636億5210万ユーロ（9.2％、2021年）
- 1人あたりの名目GDP：36,914 ユーロ（伊30,136 ユーロ、2021年）
- 経済成長率：+4％（伊+3.9％、2022年）
- 失業率：5.3％（伊8.2％、2022年）
- 輸出額：628億500万ユーロ（13.6％、前年比+16.9％、2022年1月～9月）
- 主要輸出品目：一般製造用機械、道路用車両、非金属鉱物製品、衣類、食品・飲料、鉄・鋼鉄、電気機器、医薬品 出典：伊国立統計局（ISTAT）及び伊中銀

対日貿易

- 対日輸出：11億5700万ユーロ（2022年第1及び2四半期）
- 対日輸入：2億5300万ユーロ（2022年第1及び2四半期）

（2022年11月、出典：伊中銀）

経済動向

<2023年3月>（エミリア＝ロマーニャ商工会議所レポートより抜粋）

- 2022年の同州の経済成長率は+4％であると推定されており、2020年の数値を回復したと考えられる。2021年を除いて、2022年は2000年以降急速に経済成長が伸びた。しかし2023年にはインフレにより、景気減速（+0.5％）があると考えられる。
- 2022年には建設業が飛躍的に伸び（+10.5％）、続いてサービス業（+4.9％）となった。工業（+0.7％）は活動停止時期があったため、昨年とやや変わらない結果となった。
- 2023年には金融引き締め及びインフレ上昇により、需要が減ることが想定されるため、企業界は不況に追い込まれる（-1.3％）とされており、建設（+1.2％）及びサービス（+1.3％）も景気減速すると予測されている。
- 2022年の同州の就業率は+1.2％となったため失業率は5.3％（前年5.4％）に低下した。2023年には同動向が続くと考えられる。
- 2022年第3四半期における同州の輸出は上昇傾向（前年同時期比+15.1％）にあり、全国輸出の13.3％（ロンバルディア州に次いで第2位）を占めた。また2019年同時期比+26.4％となった。主な理由として、原材料・半製品の大幅な増加に起因する輸出製品の生産価格の上昇によるものとされる。

